

主の再臨とイスラエル

王の帰還 King's College

ユダヤ人の回心はイエスが再臨される前に必ずなさらなければならない前提条件です。ユダヤ人のメシアでおられるイエスへの悔い改めは主イエスの再臨を開く門となります。

1章 福音書では、

I. マタイの福音書 24:32~35 いちじくの木のとえ

人の子でおられるイエス・キリストが雲に乗って力と大きな栄光とともに来られると言及したのちに、23節ではいちじくの木を比喻を学びなさいといわれます。

「いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかくなって、葉が出てくると、夏の近いことがわかります。そのように、これらのことのすべてを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。まことに、あなたがたに告げます。これらのことが全部起こってしまうまで、この時代は過ぎ去りません。この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。」

マタイの福音書 24章は「主の再臨の時や世の終わりにはどんな前兆があるのでしょうか?」という弟子たちの質問に対する答えであって、イエスはすべての国民に福音が宣べ伝えられることと様々な時代的な前兆とともにいちじくの木のとえを語られました。いちじくの木が柔らかくなり、葉が出てくると夏が近いといわれます。夏は収穫の終わりという意味を内包しています。すなわち、主が来られるときであり、この時代が終わって新しい時代が始まると語られたのです。

いちじくの木が柔らかくなって葉が出てくるといえるのは物理的、また霊的な二つの意味を内包しています。第一、物理的な意味は死んだようなイスラエルが19世紀後半頃、イスラエル国へ全世界的に帰還し、独立することであり(1948年5月14日)、またエルサレムが回復(1967年6月7日)するということです。第二、霊的な意味はイスラエル民族がイエスに戻ってくる回心をするということです。

そのいちじくの木は(The fig tree)は「a fig tree」を前提します。マタイの福音書 21:18~19ではいちじくの木(a fig tree)が永遠に実を結ぶことができないと語りまします。この御言葉を根拠としてイスラエルの召命はもう永遠に終わり、それだけではなく永遠に捨てられたという人もいました。

しかし、その「永遠に」という単語は永遠を意味することもあります。 「remote」と解釈されてから、長い時間、すなわちいつ終わるか知らない、とても長い時間(very long indefinite time)と翻訳されました。それが預言書やローマ人への手紙などで文脈的な流れにふさわしい解釈となります。

このような解釈をサポートするマルコの福音書 11:13(いちじくのなる季節ではなかったからである)の後半はいちじくの木が実を結ぶことができない理由について明らかにしていますが、「まだいちじくのなる季節ではなかったからである」と語ります。

II. マタイの福音書 23:39

「あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」

私たちは「福音が世の果てまで伝えられるときに、イエスが再び来られる」といわれたことを知っています(マタイ 24:14)。しかし、聖書はイエスが再臨される前に必ずなさらなければならないことが一つあると語っています。それはイスラエル民族がイエスに戻って来て罪の赦しを受け、救いを受けるというイスラエルの回心です。マタイの福音書 23 章 37~38 節ではイスラエルが偶像崇拜をし、神の御言葉から離れることによって民族的に滅びると予告しています。しかし、それがイスラエルの最後ではありません。神はイスラエルの回復について予告されます。

マタイの福音書 23 章 39 節は「祝福あれ。主の御名によって来られる方に」と告白するユダヤ人の回心が起こることについて予見し、そのようなときに主が再び来られ、それをすべての人が見るようになるかと語られます。この御言葉は詩編 118 編 26 節であって、メシアを歓迎する歌を主が引用されたのです。

マタイの福音書 21 章 9 節、メシアをはじめて歓迎する場面 (**Already but not Yet!**) 主の初臨のとき、神殿にロバに乗って入られたときに、主に従った者、すなわち弟子たち、女の人たち、子供たちがこの御言葉を引用して主を歓迎しました。しかし、ほとんどのユダヤ人、特に宗教指導者はイエスがメシアでおられるということを受け入れませんでした。マタイの福音書 23 章 39 節はイスラエルが「イエスはメシアでおられる」と告白するまでイエスを再び見ることはできないといわれます。

2 章 使徒の働き

I. 使徒の働き 1 章 1 節~8 節：神の国とイスラエルの回復

主は復活されたのちに 40 日間、神の国について語られました(使徒 1:3)、イスラエル国の回復については神の権威によってその時と期限が定められているといわれました(使徒 1:6)。聖霊が臨まれると地の果てまでイエスの証人として福音を宣べ伝えるようになり(使徒 1:8)、イエスさまが天に上って行かれたのと同じ有様で再び来られると聖書を語ります(使徒 1:11)。

主は昇天されるまえ 40 日間、神の国という重要な主題について語られます(使徒 1:3)。ダニエル書では未来になされる神の国をネブカデネザルとダニエルに見せます。

ルカの福音書 19 章 11 節から 15 節を見ると、人々はイエスさまがエルサレムに近づいて来られたときに神の国がすぐにでも現れると考えました。そのとき、イエスさまはご自分について語られました。「今ではありません。身分の高い人が遠い国に行って王位を受けて帰ります。」イエスさまが遠い国、すなわち天国に行って父なる神さまから王位を受けて天国に留まるのではなく、王としてこの世に再び戻って来られると語られます。

ヨハネの黙示録 11 章 15 節では、この世の国が私たちの主とキリスト、すなわちイエスさまの国になり、イエス・キリストが永遠に王として治めるということについて明瞭に語っています。この世の国、すなわち地球にあるすべての国々が私たちの神さまと私たちの王、イエスさまの国になると語ります。イエスさまは万王の王でおられます。

昇天される直前、主イエスさまは使徒たちに父なる神さまの御心を伝えられました。使徒の働き 1 章 7 節「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています(**The**

Father has set the appointed time (Kairos) and days (Chronos) by His own

authority)。」「父なる神さまがご自分の権威をもって、イスラエルが回復されるときまでの期限とその時をすでに定められたこと、すなわちすでに決まっているという事実をイエスさまは使徒たちに 2000 年まえ、教えられました。それゆえ、神さまがイスラエルを捨てたり、イスラエルの回復はなかったり、イスラエルの回復は間違ったりというふうに教えるのは神さまの権威、イエスさまの教えや使徒の伝承などに正面に違背となることです。それは神さまの権威に挑むことであり、イエスさまの御言葉が間違ったということなのです。

それゆえ、教会史や神学史、現代に残っているこのような間違った教えはキリスト教の中で排除されなければなりません。なぜなら、教会はキリストに属した存在であり、キリストの体であるために、かしらであるイエスさまの教えにだけ従わなければならないためです。体が頭の指示とおりに動くのが正常であるように、教会も神さまの権威によって定められたイスラエルの回復について御言葉を受け入れ、イスラエルの回復のために祈って働くのが正常です。

II. 使徒の働き 3 章 19~21 節

使徒の働き 3:19 「そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。」

使徒の働き 3:20 「それは、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにメシヤと定められたイエスを、遣わしてくださるためなのです。」

使徒の働き 3:21 「このイエスは神が昔から、聖なる預言者たちの口を通してたびたび語られた、あの万物の改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。」

五旬節に聖霊が臨まれたのち、聖霊に満たされたペテロは神殿のまえにある美しい門に座っていた足なえの人を立ち上がらせ、神さまの御心を伝えました。

聖霊に満たされた使徒ペテロを通して、主は第一の聴衆である神殿に集まっていたユダヤ人たちに重要なメッセージを宣言されます。十字架につけられたイエスさまが神から遣わされたメシアであることを宣言し、その方の力によって足なえの人が完全に癒されたということを伝えたのです。使徒ペテロは続けて「ユダヤ人よ、あなたがたは悔い改め、イエスに立ち返って罪の赦しを受けなさい。」と御言葉を伝えます。「

このようにすると、二つのことが起こるといいます。ひとつは使徒の働き 3章 19～20 節で語るように、主の御前から回復の時が来るといいます。ここの回復は個人的、また民族的な回復をいいます。もうひとつは、20 節、主(父なる神さま)があなたがたのためにメシアと定められたキリスト、すなわちイエスさまを、遣わしてくださるといいます。ユダヤ人の回心は神さまがイエスさまをこの地に遣わすために天国の門を開かせる事件となるということについて使徒ペテロを通して語られました。

21 節はイエス・キリストが天にとどまっていなければならないといっています。英語の表現はもっと明瞭です。 **He (Jesus) must remain in heaven until the time comes for God to restore everything, as he promised long ago through his holy prophets.** イザヤ、エゼキエル、ヨエル、ゼカリヤなどの聖なる預言者を通して昔から約束されたように、神がすべてのことを回復される時まで、イエスがとどまっていなければならないといっています。

それでは、聖書に出てくる聖なる預言者に神さまが約束されたものはどのようなものがあるのでしょうか？すでに成就されたことについては神さまの真実さに感謝しなければなりませんし、まだ成就されていない預言も神さまの真実さによって成就されます。そのような未成就の預言を宝物を探すように聖書の中から探し出し、それが成就される時間が迫ってくるという予感をもって祈るのがとりなしの祈りの使命者として召されたキリスト者の役割です。聖書と時代をよく読むことのできる精神を通して神さまのみわざの座標も読むことができます。

3章. 預言書

I. ホセア 3:4～5、聖なる預言者ホセア

4 節「それは、イスラエル人は長い間、王もなく、首長もなく、いけにえも、石の柱も、エポデも、テラフィムもなく過ごすからだ。」

5 節「その後、イスラエル人は帰って来て、彼らの神、主と、彼らの王ダビデを尋ね求め、終わりの日に、おののきながら主とその恵みに来よう。」

聖なる預言者ホセアを通して神さまが約束されたのは、イスラエルの子孫が長い間、王もなく過ごし、すなわち国もなく過ごしてから、その後、帰って来て主とダビデ王を尋ね求め、終わりの日にはおののきながら主のまえに来てその恵みを受けるといふことす。その預言はすでに成就されています。

II. ホセア 5:15

「彼らが自分の罪を認め、わたしの顔を慕い求めるまで、わたしはわたしの所に戻ってしよう。彼らは苦しみながら、わたしを探し求めよう。」

イスラエルが自分の罪を認めて主の顔を慕い求めるまで、主は主の所に戻っておられるといわれます。しかし、イスラエルが苦しむときに主を切に探し求めるようになること預言します。それはたぶんエゼキエル書 38 章のヤコブの患難の時を指すことであると思えます。

III. ゼカリヤ

ヤコブの患難のとき(ゼカリヤ書 12:10~13: 1)

ゼカリヤ書 12:10~13 : 1(ユダヤ人の悔い改め・主が来られる)

「わたしはダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちを突き刺したものの、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。」

ゼカリヤ書 12 章ではすべての民族がイスラエルを攻撃するために来る危機の中で、イスラエルの残されたもの、すなわち患難の中で残されたほとんどの者が主に叫ぶようになること預言します。主が恵みと哀願の霊をイスラエルに注ぐことによって、十字架につけられたイエスさまがメシアでおられるということを悟り、嘆き、大きな悔い改めとリバイバルが起こります。

まるでピョンヤンで起きたような大きな悔い改めとリバイバルが起こります。ユダヤ人の回心ののちに、ゼカリヤ書 14 章の「主の日」、すなわちメシアでおられるイエスさまの再臨の日が到来します。ゼカリヤ書 14 章 4 節ではメシアの足がオリーブ山の上に立つといひます。

すなわち、イエスさまの再臨のまえに起きる重要な事件として、ユダヤ人が民族的に悔い改めて聖められるということを経典はその文脈の中で明瞭に見せています。

IV. エゼキエル書

エゼキエル書 36 章:イスラエル国の回復の 7 段階とエゼキエル書 43 章の主が来られること

1. ディアスポラ (19 節~)

2. アリヤ (24 節) : エゼキエル書 38 章 8 節は「その国は剣の災害から立ち直り、その民は多くの国々の民の中から集められ、その民は国々の民の中から連れ出され、彼らはみな安心して住んでいる。」といます。

3. 水 (25 節) と

4. 聖霊(26~27 節)によって新しく生まれ変わる

ニコデモの救い(ヨハネの福音書 3:1~7) : 水と聖霊によって新しく生まれ変わるという同じ原理を見つけることができます。

5. 長い間、廃墟であった地に町々が築かれ、荒れ果てた地がエデンの園のように変わります(33、34、35、36 節)。エゼキエル書 38 章 12 節では「、今は人の住むようになった廃墟や、国々から集められ、その国の中心に住み、家畜と財産を持っている民に向かって、あなたの腕力をふるおうとする」といます。

6. 南王国と北イスラエル王国がひとつになる統一国家として回復されることを予告されます(エゼキエル書 37 章 15~12 節)、マナセの帰還

7. 「わたしのしもベダビデが彼らの王となり、わたしの聖所を彼らのうちに永遠に置く(エゼキエル書 37:24~28 節)」。

エゼキエル書 37 章。干からびた骨に息が入って、物理的と霊的な回復が起こります。北イスラエル王国の 10 部族(マナセ、)と南王国の 2 部族がひとつになった国になります。そして、イエス・キリストが王として治められます。悪を裁く裁きの戦争であるゴクとマゴクの戦争が発生します。 : ロシアとイランとトルコ

エゼキエル書 43 章 1~5 節 : 東向きの門を通過して神の栄光が宮に入ってきます。

エゼキエル書 43 章 12 節 : 「山の頂のその回りの全地域は最も神聖である。(**All the surrounding area on top of the mountain will be most holy**)

エゼキエル書 48 章 35 節 「その日からこの町の名は『主はここにおられる』と呼ばれる。」(**And the name of the city from that time on will be... the Lord is there.**)

V. ローマ人への手紙

ローマ人への手紙 11:12、15 ユダヤ人がイエスを受け入れることと死人のよみがえり「、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。」ここで、パウロはイスラエルが死者の中から生き返ることについて語ります。死者の生き返りは主の再臨のときにあります。すなわち、イスラエルの回復、及び救いは主がこの地に再び来られるということと因果関係をもっていることがわかります。

現在、イスラエルの回復の現況

エゼキエル書 36~37 章とイスラエルのデスティニー

1. AD70年にディアスポラになる(エゼキエル書 36:18~19)「、また偶像でこれを汚したことののために、彼らを国々に追い散らし、彼らの行いとわざとに应じて彼らをさばいた。」

2. 1881年アリヤがはじまる(エゼキエル書 36:24)：「わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れていく。」

3. 1948年5月14日にイスラエル建国(エゼキエル書 37:6~8)

イザヤ書 66:7~8「彼女は産みの苦しみをする前に産み、陣痛の起こる前に男の子を産み落とした。だれが、このようなことを聞き、だれが、これらのことを見たか。地は一日の陣痛で産み出されようか。国は一瞬にして生まれようか。ところがシオンは、陣痛を起こすと同時に子らを産んだのだ。」

4. 1949年シオン神学がはじまる(新約を研究する学者の中でイスラエルを教会というのではなく、イスラエルとして説明しはじめる神学)

エゼキエル書 37:9~「、息よ。四方から吹いて来い。この殺された者たちに吹きつけて、彼らを生き返らせよ。」

5. 1967年エルサレムの回復(エゼキエル書 37:28)

6. 1970年代にメシアニック・ジュー運動(エゼキエル書 36:25~26)「わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるその時、あなたがたはすべての汚れからきよめられる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。」

3万人・6万人のメシアニックジュー

7. イスラエル地を回復(エゼキエル書 36:8~9、34~36)

エゼキエルの預言はそのとおりになされています。

エゼキエル書 36:35「荒れ果てていたこの国は、エデンの園のようになった。」

レビ記 26:32~33「あなたがたの地は荒れ果て、あなたがたの町々は廃墟となる。」

ユダヤ人が帰るたびにイスラエルの地は耕され、ぶどう園や果樹園、丘などが建てられて造られました。イザヤ書で預言されたようになされています。

イザヤ書 35:1~2「荒野と砂漠は楽しみ、荒れ地は喜び。サフランのように花を咲かせる。盛んに花を咲かせ、喜び喜んで歌う。レバノンの栄光と、カルメルやシャロンの威光をこれに賜るので、彼らは主の栄光、私たちの神の威光を見る。」これだけではなく

て、さらに進んでネゲブ、アラバ、シナイなどにある荒野の様々な所が耕されていますし、その地は緑で覆われています。

8. イスラエルの回復について教会の目が開かれています。- gathering movements.(エゼキエル書 37:9~)「息よ。四方から吹いて来い。この殺された者たちに吹きつけて、彼らを生き返らせよ。」

9. 仮庵の祭りに全世界のキリスト者が参賀するようになりました。ユダヤ人もこれに対して肯定的に反応し、キリスト者を歓迎するようになりました(エゼキエル書 37:9)。特に、2018年、多くの国のキリスト者が仮庵の祭りのパレードに参加したことに対して、ユダヤ人は肯定的に反応するようになりました。

10. **ユダヤ人とキリスト者との関係回復運動(エゼキエル書 37:9)**

シャローム・エルサレム：ユダヤ人を慰めてユダヤ人に対するキリスト教の迫害史を悔い改めることに対して、ユダヤ人の心が開かれています。

11. **北イスラエル王国の10部族が発見され、その帰還がはじまりました(エゼキエル書 37:19~21)、マナセ部族など**

12. ラビの回心(ゼカリヤ書 12:10)若いラビの新約読み、ラビたちの伝道、ラビのイエスとキリスト教への声明書、ラビ kaduri の証し「イエスはメシアである。」

13. **ラビの社会でメシア到来に対して期待が高まる(ゼカリヤ書 12:10)**

14. **イスラエルコミュニティに教会開拓運動(エゼキエル書 36:25~26)**

証しー2000年、12/200/3000 ビジョン-2020年までエチオピア系ユダヤ人のコミュニティに教会開拓運動や神学校開拓や各背景別の神学校プログラムオープンとニューハート運動など

15. **ユダヤ人の大学生・専門人のキリスト国家ビジョン(エゼキエル書 37:25~28)**

2018年 **Bible Israel Movement** という文書運動

16. **エルサレムの USA 大使館:2018年5月14日アメリカ。グアテマラ、チェコ、ブラジル、(イザヤ書2章)の前兆**

17. **イラン、トルコ、ロシアとの戦争(エゼキエル書 38:2, 8, 9, 12, 15~16, 18, 22, 23) : イラン、ロシアのイスラエル侵攻**

18. メシアの再臨、キリスト国家とすべての世界に臨まれるイエスの国、 Kingdom of Christ (エゼキエル書 37:25~28)

「わたしのしもべダビデが永遠に彼らの君主となる。わたしの聖所が永遠に彼らのうちにある、。」